

予告

第18回まちだ男女平等フェスティバル 開催!

輝こう!一人ひとりがその人らしく

2018年(平成30年)2月3日(土)・4日(日)

2月3日(土) 9:45~12:00 3階ホール(定員188名)

オープニング

寺澤直樹さん、倉本洋子さんによる歌と詩の朗読

メイン企画

無料・要申込み

「依存症ってなあに?

ーギャンブルからネット、

アルコール、薬物までー」

講師:水澤 都加佐氏さん

(アスクヒューマンケア取締役、研修相談センター所長)

※前日祭・その他催し物多数あり



〈男女平等参画都市宣言〉
わたしたちは、男女が平等で、
一人ひとりの人権を尊重し合い、
個性と能力を十分に発揮し、自立して
生きる社会をめざします。

21世紀を迎え、町田市は、職場・
学校・地域・家庭をはじめ、社会の
あらゆる領域で、男女の真の平等
と真の参画を推進するためここに、
「男女平等参画都市」を宣言しま
す。(2001年2月1日町田市)

「まちだ男女平等フェスティバル」は、
「男女平等参画都市宣言」を記念して
毎年開催されています。

★申込み方法は…

1/11発行「男女平等推進 センターだより」をご覧ください。

ご来場をお待ち申し上げております!

シネマでトーク

素敵な映画をみて、あれこれ
楽しく話ませんか! **無料**
場所:フォーラム3階 活動室

*1月9日(火)14:00~

「最高の人生をあなたと」2011年
(仏・英・ベルギー合作)90分

30年の結婚生活を送ってきたヒロ
インが、60歳を目前に老後の生き
方を見つめ直したことから騒動が
巻き起こる人間ドラマ。家族や社
会の中で自分の居場所を見つけ出
そうともがく熟年夫婦。

*2月13日(火)14:00~

「ハリーとトント」1974年
(米)116分

ニューヨークに暮らす老人ハリー
が、区画整理でアパートを追い出
された。彼は愛猫のトントを連れ
て、娘の居るシカゴへ向かう。老
人と猫のコンビによるロード・ム
ービー。彼らが出会う人々との交
流を、温かなユーモアと優しい視
点で描く。

*3月13日(火)14:00~

「黄色い星の子供たち」2010年
(仏・独・ハンガリー)125分

1942年、フランス政府によって行
われたユダヤ人一斉検挙「ヴェ
ル・ディヴ事件」を、過酷な運命
に翻弄(ほんろう)された子ども
たちの視点から描いた真実の物
語。仏国内で長年タブーだった。

蔵書の紹介

【センターでは、図書の貸出や

DVD・ビデオの視聴ができます!】

「ワンダー」R・Jパラシオ(中野はるの訳)ホルプ出版

主人公オーガストは普通の男の子。ただし「顔」以外は。

生まれてから顔を27回も手術し、10歳で学校に通うこと

になった。姉のピアは弟をかばって猛然と戦ってきたが、

ふとした時、彼を疎ましく思う気持ちがわいたことに傷つ

く。学校には典型的な「いじめっ子」もいれば「友だち」

もできる。家族の愛情に包まれながらオーガストは自分の

世界を広げていく。誰だつて差別は良くないことだと知っ

ている。しかし読み始めると、自分の中の差別意識に気づ

かされ、また、差別された時の気持ちを追体験させられる。

「整理整頓」入江久絵 旺文社

「学校では教えてくれない大切なことシリーズ」の1巻目。

マンガで整理整頓の方法を教えてくれる。習慣化すれば

「決める力」「まとめる力」「続ける力」が身に付き「時間」

という宝物を手にとれるという。片づけが苦手な私も本書

のように小学生から整理整頓の訓練を受けていたら、今頃

ムダのない生活をしていただろう。(0)

「女性悩みごと相談」 電話番号:042-721-4842

☆女性のための身近な相談室として、電話による相談を受けています。

DVやセクハラ、夫婦間問題など一人で悩まないで相談してみませんか。

相談時間…月・火・木・金・土曜日 9:30~16:00

水(第3水曜日を除く)13:00~20:00

(日・祝日、年末年始はお休みです)



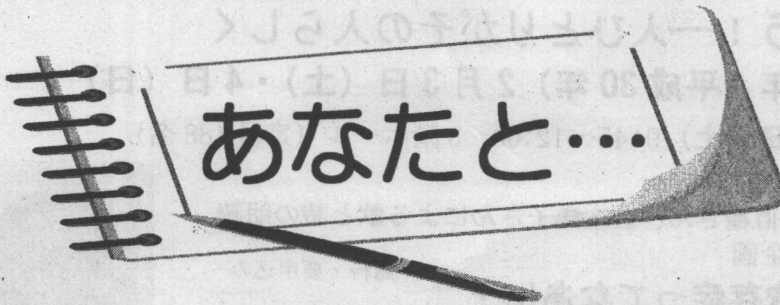
「法律相談」 予約は「女性悩みごと相談」にて受け付けます。

☆女性弁護士が担当します。

相談日:毎月第2・第4 木曜日 14:00~16:00

※祝日の場合はお休みです。





＜開催された講座の報告＞

宮台真司さん講演会「子育てって誰のもの？」

当センターで10月に開催された宮台真司さん（首都大学東京教授・社会学者・映画批評家）の講演会には、子育て中の方、高校生など計40名の参加がありました。講演内容の一部を要約して報告します。



日本の社会指標と若者の感情劣化

ユニセフの調査によると、子どもの経済格差、再配分による子どもの貧困削減率、経済階層による

学力格差、若者の自殺率など全てが先進国の中で下位（悪い方）に位置している。これらデータから見ると、日本の社会指標はボロボロ。しかし、それに気づかない学生たち。他人の苦しみに共感する力が弱い。「若者の感情の劣化」が起きている。

その原因は家族にある？

学生たちに「両親は愛し合っているか？」と質問すると、約半数が「愛し合っていない」と答えた。両親が愛し合っていると答えた学生は性体験少なく恋人がいる、愛し合っていないと答えた学生は、性体験は多いが恋人はいないという傾向があった。両親の愛ある関係が、子どもの性愛行動に影響を与えている。

愛でなく金＝損得で結びつく結婚

日本の男性は金がないと結婚できない。金のために結婚しがちな女性。年収の高い女性は結婚しない傾向がある。損得で結婚している。こうした両親の「愛より金」という生き方が「正しさより損得」という価値観と結合している。

損得で生きる親は子の自尊心を破壊している

青少年研究所によると、日本は諸外国と比べ、「親を尊敬している」「家族生活に満足している」「自分を価値ある人間だと思う」と答える子ども

がいずれも極めて少ない。「愛より金、正しさより損得」という親を、子どもは尊敬できない。正しく生きることより損得＝成績の良し悪しで評価される子に自尊感情が育たないのは当然。人は「愛と正しさで生きていけば幸せになれるのだ」と日本の親はなぜ言えないのか。損得男と損得女では愛し合えない。

家族の空洞化

両親が愛し合えず損得で生きている家族は空洞化し、子どもにとって楽しくない。どこの家族も似たような感じなので「愛に包まれた家族」という願望はなく、若者の結婚したいという内発性を弱める。結果、結婚できない男女が増え、少子化が増大。結婚できても損得家族を再生産していく。

めざすべき社会とは

良い社会とは人々が損得で動く社会ではなく、内発的な動機で行動する社会。制度や決まりがあるから従うのではなく、人々が内側から湧き出る愛や正しさを求める心に従う社会。今こそ損得を乗り越える力が必要。そのような地域、国をつくるのが子育てにとって何より大事。

子どもには「目から鱗」の体験をさせる

多くの人は異文化に触れると混乱し自己防衛のために否定しようとするが、それはつまらない生き方だ。世界は多様であり、何が善で何が悪かわからない。子どもは勧善懲悪話より「どんでん返し」のある物語が大好き。小さいうちから多面的な価値観に触れる機会を与えてほしい。

※以上は、講演内容の一部の要約です。

（文責 運営委員会）